

伊勢湾流域県の農業生産活動

Action of Agricultural Production in the Isewan Basin

○大西亮一* 樽屋啓之** 中 達雄**

OHNISHI Ryouichi TARUYA Hiroyuki NAKA Tatsuo

1. はじめに

我が国の農業は輸入食料の増加や米の生産調整により衰退が著しい。しかしながら、戦後の土地改良事業によって、ほ場や水利施設は農業基盤整備事業によって整備され、安定で効率的な農業を可能にしている。このため、これらの農業施設を効果的に利用して国際競争力を発揮する農業の育成が重要である。

一方、農業は食料を生産するだけでなく多面的機能を発揮して社会に貢献している。このため、国土や農村社会を保全する農村管理が重要である。しかし、衰退する農業従事者だけで農村を維持管理することは困難である。

このような農業及び農村の実態を明確にするため、伊勢湾流域県の愛知県、三重県、岐阜県、長野県について農業センサスデータを中心に整理したので報告する。

2. 農業就業者人口

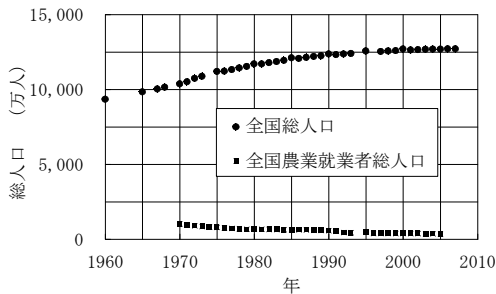


図1 農業就業者人口の年変化

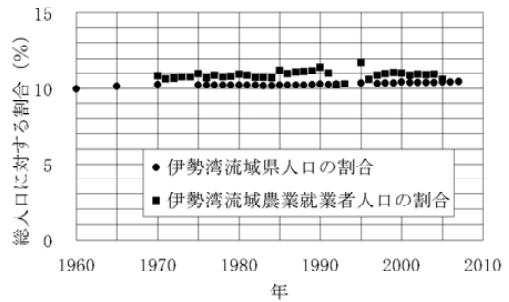


図2 伊勢湾流域県の農業就業者人口

我が国の総人口は 2010 年まで増加しているが、農業就業者人口は減少している。伊勢湾流域県の人口は我が国人口の約 10% でほぼ一定である。また、伊勢湾流域県の農業就業者人口は我が国農業就業者人口の約 12% でほぼ一定である。

3. 農地面積

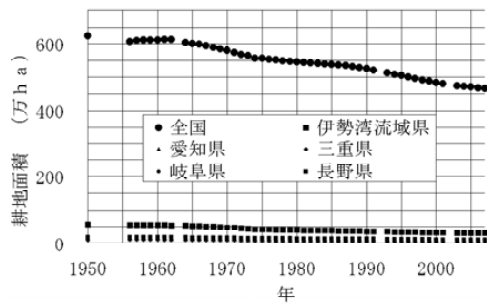


図3 耕地面積の年変化

農地面積は 1960 年以降減少している。伊勢湾流域県の農地面積も同様に減少している。

* 元農業工学研究所 ex-National Institute for Agricultural Engineering

** 農村工学研究所 National Institute for Rural Engineering

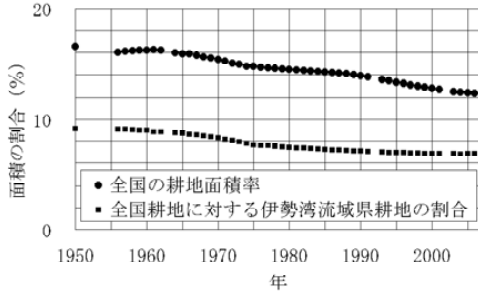


図4 総面積に対する耕地面積の割合

4. 農業生産額

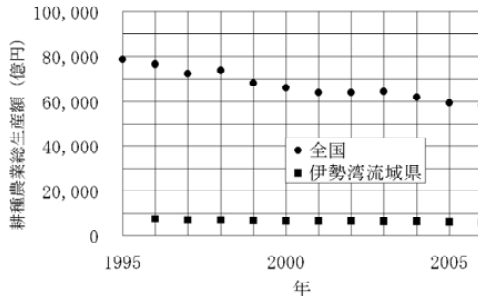


図5 農業生産額

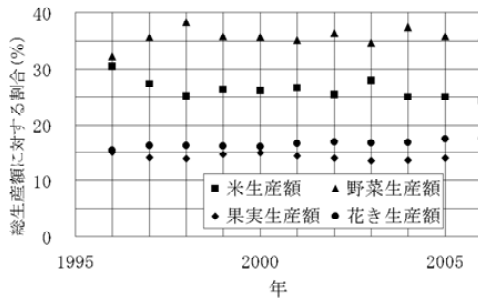


図6 作物別生産額の割合

農産物の生産額は1995年以降減少しているが、主要作物の生産額の割合はほぼ一定である。

5. 米の生産調整

我が国は米の過剰生産に伴う米の生産調整が行われ、平成12年(2000年)に調整面積が40%に達している。

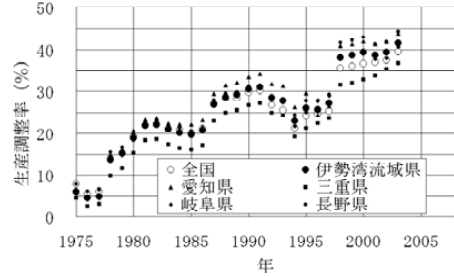


図7 米の生産調整面積の割合

6. 農業基盤整備

伊勢湾流域県の農地はほ場整備が進み、愛知用水や豊川用水等多くの大規模な水利施設が整備され、農業の生産計画、安定生産に貢献している。また、尾張西部地区など広域の排水改良が進み、豪雨災害にも強くなっている。このため、効率的な農業生産を可能にするだけでなく、地域の発展に不可欠な基幹施設となっている。

これらの農業施設を効果的に維持管理することが重要である。

7. まとめ

農業センサスデータを時系列的に見ると国及び伊勢湾流域県では人口の増加に対して農業就業者人口と耕地面積及び農業生産額が減少している。また、伊勢湾流域県では米の生産額に対して野菜や果実及び花き等の生産額が多いという特徴がある。これらは農業基盤整備の効果と考える。

一方、市町村単位で整理すると都市部の人口増加に対して、農村部の人口減少が明確である。このため、農業農村の実態解明及び対策の検討には市町村単位の整理が重要である。

参考文献

- 1) 農業センサス、2) 農林水産統計(ポケット)、4) 東海農政局: 圃場整備等完了地区調査書、5) 林ら: 「撤退の農村計画」、6) Wikipedia、7) 大西: 「農地の水保全機能とこれからの農地管理」